

Nara National Museum

# 奈良国立博物館

## だより

第 **103** 号

平成29年 10・11・12月



綾継分房付幅残欠(部分)(南倉) -「第69回 正倉院展」より-

特別展

第69回  
正倉院展

10月28日(土)~11月13日(月)  
東・西新館

特別陳列

おん祭と  
春日信仰の美術

12月9日(土)~平成30年1月14日(日) 東新館

特集展示

新たに修理された文化財

12月26日(火)~平成30年1月14日(日) 西新館

名品展

珠玉の仏たち

通期開催 なら仏像館

中国古代青銅器

通期開催 青銅器館

珠玉の仏教美術

12月9日(土)~ 西新館

# 第69回 正倉院展

10月28日(土)～11月13日(月)

本年の正倉院展には五十八件の宝物が出陳されます。本年は様々な素材を用いた様々な形の坏わいが揃そろうのが特筆されます。

ペルシアに起源を持つ多曲坏たまきへいを、鉛ガラスを用いて中国で作ったとみられる緑瑠璃みどりるり十二曲長坏じふにまきへい。チューリップのような花や兎のデザインが異国情緒を喚起します。金銅八曲長坏こんどうはちまきへいは、同じくペルシア起源の多曲坏たまきへいを銅を用いて鑄造ちゆうぞうし、鍍金とくごんを施したものです。銅に含まれた砒素ひそから、わが国で作られたものと考えられます。ペルシアの金銀器を模した中国の金銀器を模したものでしょう。玉長坏ぎよちゆうへいは中国で古くから珍重された玉製の坏わい。犀角坏さいかくのまきは西アジアから中央アジアで好まれた角坏かくへいを思わせる形状で、サイの角をそのまま用い、口の部分を蓮弁形に成形しています。犀角は中国では薬用にも用いられたので、容量の少ない本品は、薬酒用とも考えられます。

貴重な素材を用いたり、シルクロードの彼方の形を模したこれらの坏わいは、仏・菩薩に捧げられたものと考えられますが、どのような液体が注がれたかを想像しながらご覧いただければ、一層本展をお楽しみいただけることと思います。

このほか、献物けんもつに用いられた箱や台、献納された数珠じゆず、經典を包んだ竹製の帙ちつ、法会ほふえに用いられた様々な道具など、煌びやかな品々から天平人の敬虔な祈りを感じていただければ幸いです。



緑瑠璃十二曲長坏(中倉)



犀角坏(中倉)



玉長坏(中倉)



雑玉誦数(南倉)



金銅八曲長坏(南倉)

特別陳列

# おん祭と春日信仰の美術

―特集 社家史料と若宮―

12月9日(土)～平成30年1月14日(日)

おん祭は、奈良の春日若宮社の祭礼です。その歴史は古く、平安時代の保延二年(一一三六)に始まったとされ、今年で八百八十二年目を迎えます。一年のうち一日だけ(現在は十二月十七日)、御旅所<sup>たびしよ</sup>に遷座する若宮神の前では様々な芸能が奉納され、また、祭礼の参列者が御旅所<sup>ふりやう</sup>へ向かう風流行列は、奈良の市中を巡り、彩りを添えます。

この特別陳列は、春日若宮おん祭の歴史と祭礼の様子を紹介する恒例の企画です。本年は、風流行列を描く絵巻物などを展示するほか、かつて春日社の神官を務めた旧社家に伝来した史料を交えつつ、若宮の歴史や春日社の造替<sup>ぞうかひ</sup>について概観します。



春日若宮御祭礼絵巻 中巻(春日大社)



春日権現験記 巻第十(春日大社)



春日御社御造営事(断簡貼交屏風)(個人蔵)



盃台(春日大社)

特集展示

## 新たに修理された文化財

12月26日(火)～平成30年1月14日(日)

長い時を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に修理を受けながら大切に保存されてきたものです。当館では、これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品(館蔵品・寄託品)について、毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示は、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開するものです。また、その修理内容についてもパネルでご紹介します。



重要文化財 神泉苑請雨経法道場図(当館)の修理の様子

## 「正倉院展の英語訳」

当館学芸部研究員 堀内 しきぶ

夜ごと春日野に響く虫の音に、深まりゆく秋を感じるころとなりました。奈良の秋の風物詩、「正倉院展」が今年も開催されます。

正倉院宝物には一二〇〇年を超える歴史があり、使用される用語も伝統的なもので、一読しただけでは想像が付きにくいものもあるかもしれません。こうした難解な用語も、英訳を見るとイメージしやすいと言っていたことは少なくありません。

正倉院展では、展示室に英語キャプションを掲示するほか、英文図録も発行しています。英文図録は安価で小さく持ち運びやすいということで、日本人の方にもご好評をいただいているようです。

こうした英語訳は、ネイティブで、かつ美術や歴史に詳しい専門家に翻訳を依頼し、それらに修正を加えたものを使用しています。私は国際交流担当として英訳の校正を行っています。が、翻訳・校正作業にはいくつか難しい点があります。

そのうちのひとつとして挙げられるのが、異なる二つの意味を持つ用語の翻訳です。たとえば、今年出陳される「鳥花背八角鏡」。この鏡は図録では「白銅製鑄造鏡」と説明されています。現代では、一般には「白銅」は銅とニッケルの合金(copper-nickel alloy)を意味します。しかし、美術史・考古学の世界で用いられる「白

最近の正倉院展英文図録



銅」は、錫を多く含む青銅(銅と錫の合金)を指し、色が白っぽいことからwhite bronze(白い青銅の意)と訳しています。各時代の技術について知っておくことや、著者の意図を正しく読み取ることが、誤訳を防ぐために必要になってきます。

次に挙げられるのが、通行の名称と実際のものに食い違いがあるかもしれない場合があります。こちらも今年出陳の「木画螺鈿双六局」は、名称には「双六」とありますが、双六の道具であるとする説と、双六ではなく「弾棋」(後世のおはじきに似た遊び)の道具とする説とがあります。日本語での名称を尊重し、英語名に「sugoroku」という言葉を入れるか、あるいは内容的な誤りを含まないようカットするか、現在検討しているところです。皆さんはどちらがいいと思われませんか？

今年はキャプションに英語だけではなく中国語・韓国語も登場する予定です。ぜひお楽しみに。

### 【表紙写真解説】

#### 綾継分房付幡残欠

一片  
正倉院宝物 南倉  
縦五七cm 横三八cm



正倉院の三つの倉のうち、主に平安時代に東大寺から移された宝物が伝来する南倉には、夥しい数の幡(仏堂などに掲げられる旗・幟)の残欠が伝わっている。本品はそのうち、綾継分房付幡と称する、房の装飾が特徴的な幡の頭のみが残ったものである。三角形の中心の鏡と呼ばれる部分には平安時代以降に有職文様として親しまれる「窠に蔽」に似た文様が用いられており、正倉院宝物の文様が後世に規範となり、伝統として継承されていったことがうかがわれる。

清水 健 (学芸部工芸考古室長)

出陳一覽

名品展 珠玉の仏たち

なら仏像館

10月3日(火)〜平成30年1月8日(月)祝

彫刻

〔第1室〕

- 如来立像 当館
- 藏王権現立像 当館
- 広目天立像 当館
- 伽藍神立像 当館
- 毘沙門天立像 当館
- 南無仏太子立像 当館

〔第2室〕

- 獅子 当館
- 獅子 当館
- 観音菩薩立像 文化庁
- 弥勒菩薩立像 室生寺
- 観音菩薩立像 細見美術財団

〔第3室〕

- 宝冠阿弥陀如来坐像 安楽寺院
- 阿弥陀如来坐像 当館
- 阿弥陀如来坐像 善福寺
- 阿弥陀如来立像 当館
- 阿弥陀如来立像 個人
- 阿弥陀如来立像 個人

〔第4室〕

- 菩薩坐像 観音寺
- 侍者坐像 当館
- 天部坐像 当館



◎薬師如来坐像 当館

〔第5室〕

- 薬師如来坐像 当館
- 文殊菩薩坐像 薬師寺
- 誕生釈迦仏立像 新薬師寺
- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 如来立像 悟真寺
- 菩薩立像 当館
- 菩薩半跏像 法起寺
- 観音菩薩立像 神野寺
- 観音菩薩立像 法隆寺
- 観音菩薩立像 観心寺
- 二仏並坐像 金剛寺
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 観音菩薩立像 個人
- 十一面観音菩薩立像 個人
- 力士立像 個人
- 力士立像 個人
- 如来立像 光明寺
- 如来立像 当館
- 釈迦如来坐像 園城寺
- 薬師如来坐像 文化庁
- 誕生釈迦仏立像 薬師寺
- 不動明王立像 当館
- 勢至菩薩立像 当館

〔第6室〕

- 阿弥陀如来立像(裸形) 浄土寺
- 釈迦如来立像 法明寺
- 獅子 個人
- 象 個人
- 如来三尊像 当館
- 如来三尊像 個人
- 天部立像 兵庫県
- 如来立像 当館
- 阿弥陀如来坐像 歡喜寺
- 宝冠阿弥陀如来坐像 當麻寺
- 如意輪観音菩薩坐像 当館
- 釈迦如来坐像 室生寺
- 千手観音菩薩立像 妙法院
- 光背(二月堂本尊所用) 東大寺

- 十一面観音菩薩立像 勝林寺
- 十一面観音菩薩立像 新薬師寺
- 十一面観音菩薩立像 薬師寺
- 観音菩薩立像 観心寺
- 千手観音菩薩立像 園城寺
- 十一面観音菩薩立像 元興寺

〔第8室〕

- 梵天立像 秋篠寺
- 救脱菩薩立像 秋篠寺
- 広目天立像 興福寺
- 兜跋毘沙門天立像 当館
- 降三世明王坐像 金剛寺
- 二天王立像 室生寺

〔第9室〕

- 龍猛菩薩立像 泰雲院
- 地藏菩薩立像 十市町自治会
- 明星菩薩立像 弘仁寺
- 地藏菩薩立像 大福寺
- 地藏菩薩立像 新薬師寺
- 准胝観音菩薩立像 文化庁

〔第10室〕

- 不動明王立像 当館
- 愛染明王坐像 当館
- 不動明王坐像 園城寺
- 五大明王像 当館
- 軍荼利明王立像 園城寺
- 大威徳明王騎牛像 当館

〔第11室〕

- 十二神将立像 当館
- 伊豆山権現立像 当館
- 狛犬 與喜天満神社
- 大津皇子坐像 薬師寺
- 男神坐像 当館
- 童子形坐像 観音寺

〔第12室〕

- 阿弥陀如来立像(善光寺式) 善光寺
- 菩薩坐像 文化庁
- 帝釈天坐像 室生寺
- 十二神将立像(辰・未神) 室生寺

〔第13室〕

- 如来倚像 当館
- 観音菩薩立像(二面) 当館
- 吉祥天倚像 当館
- 地藏菩薩立像 当館
- 僧形立像 当館
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 蔵王権現立像 大峯山寺
- 被損仏像残欠コレクション 当館

名品展 珠玉の仏教美術

12月9日(土)〜平成30年1月8日(月)祝 西新館

〔絵画〕

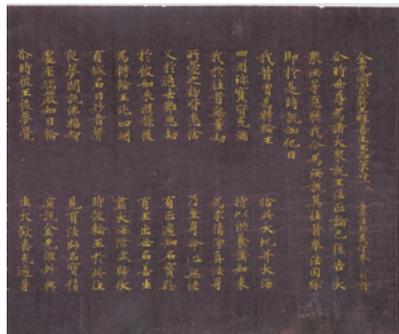
- 俱舍曼荼羅 東大寺
- 香象大師像 東大寺
- 至相大師像 東大寺
- 圭峯大師像 東大寺
- 清涼大師像 東大寺
- 聖徳太子絵伝 談山神社
- 天台大師像 施福寺
- 金剛智像(真言八祖像のうち) 神護寺
- 一行像(真言八祖像のうち) 神護寺
- 弘法大師像(真言八祖像のうち) 神護寺
- 真言八祖像(八幅) 当館
- 浄土五祖絵伝断簡 個人
- 浄土五祖絵伝断簡 個人
- 法然聖人絵(弘願本) 知恩院
- 高野大師行状図画 卷十 本證寺



◎俱舍曼荼羅 東大寺

〔書跡〕

- 伝灯大法師位記 園城寺
- 智証大師関係文書典籍 園城寺
- 智証大師関係文書典籍 園城寺
- 福州温州台州求法目錄 園城寺
- 智証大師関係文書典籍 園城寺
- 弘法大師二十五箇条遺告 当館
- 西大寺伝法灌頂私記 当館
- 明恵上人夢記(四月廿二日) 当館
- 神護寺如法執行問答 当館
- 経箱 法華経(一品経)附属 長谷寺
- 金光明最勝王経(紫紙金字)卷第九 当館
- 華嚴経(紫紙金字)卷第七十 当館
- 法華経(紫紙金字)卷第二 当館
- 法華経(紫紙金字)卷第六 乘宝寺
- 金光明最勝王経(紫紙金字)卷第二 当館
- 残卷 当館



◎金光明最勝王経(紫紙金字) 卷第九 当館

〔工芸〕

- 長谷寺 当館
- 西方寺 当館
- 大福光寺 当館
- 薬師寺 当館
- 唐招提寺 唐招提寺
- 手向山八幡宮 手向山八幡宮
- 手向山八幡宮 手向山八幡宮
- 海松円文鞍 手向山八幡宮

◎琵琶 丹生都比売神社

男神鏡像 当館(服部和彦氏寄贈)

男神対向鏡像 当館

男神懸仏 石上神宮

山王七社本地懸仏 当館

山王七社本地懸仏 当館

◎三鈷柄剣 鞍馬寺

太刀 銘義憲作 石上神宮

太刀 銘助宗 八幡神社

◎太刀 銘吉平 談山神社

王子形水瓶及び承盤 当館

王子形水瓶 当館

仙蓋形水瓶 当館

仙蓋形水瓶 当館

水瓶 当館

布薩水瓶(鯉口形) 当館

布薩水瓶 当館

信貴形水瓶 当館

信貴形水瓶 個人



◎琵琶 丹生都比売神社

◎考古 家形土器(鳥取県湯梨浜町藤津出土)

\*線刻絵画銅剣 鳥取県立博物館

銅矛(愛媛県四国中央市出土) 当館

銅鐸 妙国寺

\*土器枕(鳥取県古郡家1号墳出土)

鳥取県立博物館

鳥取県立博物館

埴枕(奈良県五条猫塚古墳出土) 当館

水鳥裝飾付須恵器蓋 (静岡県蛭子森古墳出土) 浜松市

\*須恵器脚付子壺(鳥取県宗像1号墳出土) 鳥取県立博物館

人物線刻裝飾付子持壺 鳥取県立博物館

(伝愛媛県北条市出土) 当館

\*馬形埴輪(静岡県郷ヶ平3号墳出土) 浜松市

\*鹿形埴輪(静岡県辺田平1号墳出土) 浜松市

大形埴輪(伝茨城県東海村外宿出土) 浜松市

◎風鐸(奈良県山村廃寺) 円照寺

◎石製相輪(奈良県山村廃寺) 円照寺

蓮華文鬼瓦(奈良県山村廃寺) 個人

軒丸瓦・軒平瓦(奈良県山村廃寺) 当館

風鐸(和歌山県上野廃寺) 当館

隅木蓋瓦(和歌山県上野廃寺) 当館

\*風鐸・風招(鳥取県伯耆国分寺) 鳥取県

\*軒丸瓦・軒平瓦(鳥取県伯耆国分寺) 鳥取県

靈安寺塔跡出土鎮壇具(銭貨・銅鏡・鏡) 鳥取県立博物館

◎山代忌寸真作墓誌 当館

◎佐井寺僧道業墓出土土品(墓誌・蔵骨器) 当館

行基墓誌残片 当館

蔵骨器(灰釉平瓶) 当館

(奈良県壺阪寺奥院出土) 当館

蔵骨器(灰釉短頸壺他) 当館

(茨城県石岡市八郷出土) 当館

◎青磁牡丹唐草文深鉢 正暦寺

(奈良県正暦寺出土) 正暦寺

銅製経筒・陶製外筒 当館

(和歌山県粉河経塚出土) 当館

陶製壺・甕 当館

(伝和歌山県白浜経塚出土) 当館

六器・火舎 当館

(伝和歌山県白浜経塚出土) 当館

銅製高杯 当館

(伝和歌山県白浜経塚出土) 当館

草花双鳥鏡 (伝和歌山県白浜経塚出土) 当館

青磁合子・白磁合子 当館

(伝和歌山県白浜経塚出土) 当館

陶製経筒(伝愛媛県北条市出土) 当館

経筒(伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

銅鏡(伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

六器(伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

華瓶(伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

独鈷杵 (伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

白磁合子 (伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

銅製経筒(伝福岡県出土) 当館

(伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

◎銅製経筒(伝福岡県出土) 当館

(伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

(\*は考古資料相互活用促進事業による展示)



隅木蓋瓦(和歌山県上野廃寺) 当館

◎国宝、◎重要文化財

\*展示品は都合により一部変更する場合があります。

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています

(しばらくの間一階のみの展示となります)。

もっと知りたい!奈良博の魅力

秋の庭園を散策しませんか



当館の隠れた名所、茶室「八窓庵」をとりまく庭園を散策しませんか?

秋の紅葉にあわせ、当館ボランティアが見どころを解説しながらご案内いたします。

- 【日 程】 11月18日(土)、11月19日(日)
※雨天および庭園の状態が悪い場合は中止
【所要時間】 約60分(茶室の入室を含む)
【定 員】 各日とも先着30名 ※事前申し込み不可
【受付時間】 12:00~ 整理券配布
(13:15から1組5名程度の少人数で、15分間隔で出発)
【受付場所】 露地門前(庭園入口)
【料 金】 無料
※11月18日(土)・19日(日)は「関西文化の日」のため、名品展も無料でご観覧頂けます。
※詳しくは、当館ホームページの「催し物」をご覧ください。

◆奈良国立博物館賛助会

平成29年9月30日現在、一般会員(個人)53名、一般会員(団体)15団体、特別会員3団体、特別支援会員4団体のご入会をいただいております。
[一般会員(個人)] 玉置さよ子様(平成29年8月ご入会)
栗田登紀子様(平成29年9月ご入会)

◆キャンパスメンバーズ

平成29年9月30日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。
大阪大学・関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部・京都外国語大学・京都外国語短期大学・京都教育大学・京都教育大学附属高等学校・京都工芸繊維大学・京都女子大学・京都女子高等学校・京都精華大学・京都大学・京都橘大学・近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科・嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学・四天王寺大学人文・社会学部・就実大学人文科学部・帝塚山大学・天理大学・同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校・奈良学園大学・奈良文化女子短期大学部・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校・奈良教育大学・奈良県立大学・奈良工業高等専門学校・奈良佐保短期大学・奈良女子大学・奈良先端科学技術大学院大学・奈良大学・佛教大学・立命館大学・立命館大学大学院・龍谷大学・龍谷大学短期大学
(以上、五十音順)

## ❖ 第69回正倉院展公開講座 ❖

10月28日(土) 「正倉院の縹緞技法について」

片岡 真純 氏 (宮内庁正倉院事務所保存課整理室員)

11月4日(土) 「正倉院の鏡」

中川 あや (当館学芸部主任研究員)

11月11日(土) 「正倉院の屏風と蓮華蔵世界」

長岡 龍作 氏 (東北大学大学院教授)

【時 間】 各回とも13:30~15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

※12:00から当館講堂前にて入場整理券(お1人様につき1枚)を配付します。

※入場整理券の受取の際には本展の観覧券もしくはその半券、国立博物館パスポート、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。

※入場受付は講座開始後30分で終了します。

## ❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■10月15日(日) 「春日塔跡の散策」

吉澤 悟(当館学芸部列品室長)

平安時代、春日の神様に二つの仏塔が捧げられました。奈良国立博物館の敷地に遺るこの春日塔跡を、現地散策しながら解説します。集合場所は講堂。大雨の場合は講堂内で解説します。

■11月19日(日) 「文化財を科学するⅣ」

鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)

当館では、文化財の健康診断に役立つ最新のX線CTスキャナを導入しました。どのようなことが分かるのか、また何に役立つのかなど事例を元にご紹介します。

■12月17日(日) 「欧米で出会った日本彫刻あれこれ」

岩田 茂樹(当館学芸部上席研究員)

美術品は旅をすることがあります。なかには数奇な運命をたどり、海外の美術館の所蔵品となったものも。今回は、私が欧米で出会った日本彫刻のなかから、これまであまり紹介されていない作品について報告いたします。

■平成30年1月21日(日) 「刺繍の仏像」

田澤 梓(当館学芸部研究員)

裂地に刺繍で仏教的主题をあらわした繡仏は、飛鳥時代にはじまりました。繡仏を展示する平成30年夏の特別展の事前調査を通じて、分かったことやその魅力をご紹介します。

■平成30年2月18日(日) 「官人の腰帯」

中川 あや(当館学芸部主任研究員)

日本古代の役人は身分を表象するものの一つとして腰帯を身につけていました。正倉院の腰帯や発掘調査で見つかる腰帯、東アジアの腰帯など、古代の様々な腰帯の世界をご紹介します。

■平成30年3月18日(日) 「将軍が崇敬した温泉神」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

静岡県東端の温泉郷「熱海」。この地に鎮座する伊豆山神社の祭神・伊豆山権現(走湯権現)は、東國の守護神として信仰を集めました。その信仰について、近年の保存修理で面目を一新した銅造伊豆山権現像を中心に考えます。

【時 間】 各回とも14:00~15:30(13:30開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

※12:30から当館講堂前にて入場整理券(お1人様につき1枚)を配付します。

※入場受付はトーク開始後30分で終了します。

## ❖ 正倉院学術シンポジウム2017 ❖

■「正倉院の色」

【日 時】 11月3日(金・祝)13:00~17:30

【会 場】 東大寺総合文化センター 金鐘ホール

【定 員】 250名(事前申込制、定員に達し次第締め切り)

【応募方法】

◆往復はがき

往信用はがきに、[正倉院学術シンポジウム聴講希望]と明記の上、[氏名・ふりがな・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢]を記入してください。

返信用はがきには宛名・住所を記入してください。

◆ホームページ専用申込みフォーム

奈良国立博物館ホームページ「講座・催し物」内の「正倉院学術シンポジウム2017」申込み画面より必要事項を入力の上、お申し込みください。

【受付期間】 10月2日(月)~10月30日(月)必着

※応募はいずれかの方法で1人につき1回でお願いいたします。

## ❖ ボランティア解説 ❖

■「正倉院展のみどころ」

正倉院展の会期中、当館ボランティアがスライドを使用して展覧会のみどころを分かりやすく解説いたします。ご鑑賞にあわせてぜひお立ち寄りください。

【日 時】 「第69回 正倉院展」会期中、毎日

①10:00~ ②11:00~ ③12:00~ ④13:30~ ⑤14:30~

※ただし、10月28日(土)、11月4日(土)、11月11日(土)は公開講座のため、④⑤の回は中止となります。

【所要時間】 約30分

【会 場】 当館講堂(各回20分前より開場)

※満席になり次第締切とさせていただきます

【定 員】 先着194名(事前申し込み不可)

※聴講は、当日正倉院展へ入場中の方に限らせていただきます。

## ❖ 募 集 ❖

■平成30年~32年度「奈良国立博物館ボランティア」募集

平成30年4月から平成33年3月まで、当館で活動していただくボランティアを募集いたします。3年に一度の募集です。この機会にふるってご応募ください。

【受付期間】 12月1日(金)~12月25日(月)

【募集人数】 150名

【お問い合わせ】

奈良国立博物館ボランティア室 TEL:(0742)94-5122

※詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

## イベント情報

ーもっと知りたい!奈良博の魅力ー  
「第2回 ボランティア・フェスタ」開催

当館での多彩なボランティア活動を皆様にご存知いただきたく、今年で2回目となります「ボランティア・フェスタ」を開催いたします。当館ボランティアとのふれあいの中で、今までとは違った奈良博の魅力に気付いていただけたらと思います。

【日 程】 12月17日(日) 観覧無料日

※当日は「春日若宮おん祭」のため、周辺道路では時間によって交通規制が行われます。ご来場の際はご注意ください。お待ちしております。

【時 間】 10:00~16:00

【参加費】 無料

※詳しくは、当館ホームページの「催し物」をご覧ください。

展示品の  
みどころ

しんせんえんしょう うきょうほうどうじょうず  
神泉苑請雨経法道場図

重要文化財

1幅  
紙本墨書 墨画 淡彩  
縦141.5cm 横86.9cm  
鎌倉時代(13世紀)  
当館



神泉苑は、平安京大内裏の南東に天然の泉と低地を利用して営まれた園池で、9世紀後半以降、池に棲むと信じられた龍王に雨乞いを行う道場として定着していった。本図は、雨乞いの修法の一つである請雨経法を、鎌倉時代の醍醐寺座主・実賢が執り行った際の様子を伝える写本である。

請雨経法は、大阿闍梨と伴僧による密教修法(壇法)や読経、龍王の供養、陰陽師による五龍祭などを組み合わせた複雑な儀式である。しかも7日間など期限を定めて行われ、もちろん成功するとは限らなかった。本図にも、修法壇・読経所を設けた仮屋、その屋上に立てた13本の幡戟、部外者の出入を禁じる立札などが描かれており、これらは大阿闍梨の威信をかけた修法の研究材料として書き伝えられたわけである。

実賢には請雨経法を3度行った記録がある。1度目の延応2年(1240)は期限を延長して辛うじて務めを果たし、2度目の寛元2年(1244)は期限内に雨を降らせたが、3度目の宝治元年(1247)は失敗に終わっている。本図の内容は、1度目の絵図に2度目の変更点などを追記したもので、実賢の試行錯誤を伝えるものといえる。3度目の事例に本図が触れていないのは、やはり理由があるのだろうか。

画面左上の朱書によると、本図は西大寺を再興したことで知られる叡尊が、弘安2年(1279)に写させたものであるという。叡尊の署名は自筆と認めたいが、ほぼ同時代の写本と考えられている。鎌倉時代の神泉苑の実態を伝える絵図として貴重なだけでなく、龍王の存在を思わせる勢いある水の描写など、絵画的な見ごたえもある。このたび1年間の解体修理を終えてのお披露目となる。

樋笠 逸人(当館学芸部研究員)

◆特集展示「新たに修理された文化財」にて展示

あいぜんみょうおう ざ ぞう  
愛染明王坐像

重要文化財

1軀  
木造 彩色・截金  
像高26.2cm  
建長8年(1256) 快成作  
当館



像高1尺(約30cm)に満たない小像ながら、あざやかな彩色と繊細な金銅製装飾が目をはひく愛染明王像。台座裏の銘文及び像内に納入されていた「瑜伽瑜祇経」の奥書によれば、建長8年(1256)に叡尊の弟子寂澄が願主となり、快成を大仏師として山城国相楽郡東小田原(現在の京都府木津川市加茂町)の随願寺において造立された。像容を小作りにとまとめた穏健な作風や、各部の明快な彫り口には快成の持ち味が発揮される。

本像は伝来不詳とされてきたが、第2次世界大戦以前には実業家として著名な朝吹英二や武藤山治の所蔵だったことが確かめられる。さらにさかのぼって、明治39年(1906)に奈良・興福寺の境内で撮影された仏像写真(同寺蔵)に写り、その後益田英作(益田鈍翁の末弟)の手に帰した愛染明王像の存在が知られるが、本像はこれと大きさや像容のみならず光背や台座の形式まで一致し、各腕の後補箇所も共通するとみられることから、すくなくとも明治39年の時点では興福寺にあった可能性が高い。

13世紀中頃の興福寺では、建長5年(1253)に快門が弥勒菩薩像を造立し、長快が十一面観音像(三重・パラミタミュージアム蔵)を造立するなど、名前に「快」字を有する仏師が旺盛な活動をみせた。これらは、大乘院をはじめとする興福寺の院家や大乘院末寺の造像に関わったとみられる快慶の事績を承けたものであろう。本像は興福寺末寺だった随願寺からある時期に移坐された可能性もあるが、かりに造立当初より興福寺に安置されたとすれば、その名からやはり快慶の系譜を引くと考えられる快成と同寺との関わりを具体的にしめす存在となり注目される。

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

◆10月3日～ 名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時(10月～12月)

■開館時間/午前9時30分～午後5時

- ・特別陳列、特集展示、名品展は、金・土曜日は午後8時まで(12月29日・30日を除く)。
- ・「第69回正倉院展」会期中、月～木曜日は午前9時～午後6時、金・土・日曜日、祝日は午前9時～午後8時。
- ※いずれも入館は閉館の30分前まで

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

- ※団体は20名以上です。
- ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は無料です。
- ※毎月22日にご夫婦で観覧される方は各半額、11月22日にご夫婦で観覧される方は無料になります。
- ※中学生以下の方と一緒に観覧される方、冬休み期間(12月・1月)で開館時間延長日の午後5時に以降に観覧される方は、団体料金を適用します(子どもといっしょ割引・レイト割引)。
- ※11月18日(土)・19日(日)(関西文化の日)、12月17日(日)(おん祭お渡り式の日)は無料観覧日となります。

■休館日/毎週月曜日

- ・「第69回正倉院展」の会期中については無休。
- ・10月9日(月・祝)は開館し、10月10日(火)は休館。

第69回 正倉院展

	一般	高校・大学生	小・中学生	親子ペア
個人(当日)	1,100円	700円	400円	—
前売・団体	1,000円	600円	300円	1,100円
オータムレイト	800円	500円	200円	—

- ※団体は20名以上です。 ※前売券の販売は10月27日(金)までです。
- ※親子ペア観覧券は一般1名と小・中学生1名がセットになった割引観覧券です。
- ※前売のみで、販売は主要プレイガイド、コンビニエンスストア(一部)に限ります。
- ※オータムレイトチケットは、閉館の1時間30分前から入場できる当日券です(当館当日券売場のみで、閉館の2時間30分前から販売します)。
- ※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は当日券を400円でお求めいただけます。
- ※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「水室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。